



# なきごえ



1989

2

大阪市  
天王寺動物園協会

山岸 哲



私の研究室は「動物社会学研究室」という看板を付けているが、こういう研究室は知る限りでは全国の大学でうちのようだ。動物社会学はおもに同種個体間の諸々の関係一た

たとえば夫婦関係・親子関係・兄弟関係・仲間関係といった一を明らかにすることを目的とする。

今西錦司氏が1951年に岩波新書で、「人間以前の社会」を書かれ、それまでの社会性昆虫のような「集団(合)即社会である」という社会観に変わって、単独性のもので含めて、全ての動物に社会を認め、その進化の法則を探ろうとされてから久しい。この時点ではおそらく、この考え方は世界で最も先を走っており、その後の動物社会学確立の可能性が最も高い位置にあった我が国の動物社会学も、その後の足取りは意外と遅々としたものであった。人間以前の社会の研究も、その主力はサルどまりであって、霊長類の社会の研究が進んだ割には、サル以前の社会の方はあまりはかばかしい成果が得られなかったようだ。

ところで、動物の社会を見てゆくと、その視点が一昔前とはずいぶん変わったことに気づく。私自身20年前にはホオジロという小鳥のなわばり社会の研究にたずさわっていたが、学位論文をまとめる際には、こうしたなわばり社会のもつ個体数の調節機構といったものが議論の中心であった。つまり、なわばりをもったつがいが繁殖し、もてない個体は繁

殖から排除されて、ホオジロの種としての個体数の安定性が保たれるという話である。その頃はローレンツが比較行動学でノーベル賞をとった頃でもあり動物は種にとって善であるように振舞うというのが大方の了解でもあった。先の話では、なわばりをもてない個体は種のためという大義名分のために犠牲的に繁殖を見合わせるわけである。こうした見方はやや全体主義のにおいがしないでもない。

この視点はウィルソンの「社会生物学(ソシオバイオロジー)」(1975)やドーキンスの「利己的遺伝子」(1976)の登場によって大きな変換を成しとげた。動物の行動は遺伝子によって規制されており、個体そのものはそれによって遺伝子が生き残り、再生産するための、一時的乗り物、もしくは生存機械に過ぎないという。遺伝子に対する自然選択は表現型を通じて行われるから、最も成功する遺伝子が一番効果的に個体の生存と繁殖成功を成しとげる遺伝子であろう。遺伝子選択の結果として、それぞれの個体が遺伝子の生存を高めるように行動する。このパラダイムでは動物は自己犠牲的な行動はしないことになる。常に自己の遺伝子のコピーを多く残した個体が勝者となるから、他個体を欺くとか、出し抜くとかいった行動がごく当り前のこととなる。私自身も研究室の学生諸君も今はこの線に沿った仕事に血道をあげている。

ものの見方は時代と共に変わるものだろうが、動物の行動には遊びとか、無駄とか、利他心、博愛心といったものは存在し得ないのだろうか。「1億拝金主義」、「不倫時代」、「競争時代」の今日には社会生物学的個人主義の見方はよくあっているように見えるが、なんとなく居心地の悪い思いをしている毎日ではある。それにしても、社会生物学の後にくるパラダイムは何なのであろうか。だいそれた看板を掲げたものとしては気になるところである。

(大阪市立大学教授)

なきごえ2月号もくじ

動物と私.....	2
“昨年3頭目のエランド誕生”.....	3
動物園グラフ・動物園日記.....	4・5
キジの飼育.....	6・7
アメリカバクを飼って.....	8・9
獣医室から④⑤.....	10
動物園ニュース.....	11

表紙の写真説明

キンカジュー

*Potos flavus*

メキシコの南部からブラジルにかけてのジャングルに分布しています。果実を主食にしています。長い舌と巻きつけることができる尾が特徴です。(撮影：大川 光雄)



“昨年3頭目のエランド誕生”

11月23日、エランドにオスの赤ちゃんが生まれました。昨年1年で3頭目の出産です。きびしくなってきた寒さにも負けず、お母さんと一緒に駆け回っています。(撮影：中垣 圭史)

# 動物園グラフ

なきごえ25(2),1989

## “アメリカバクに赤ちゃん誕生”

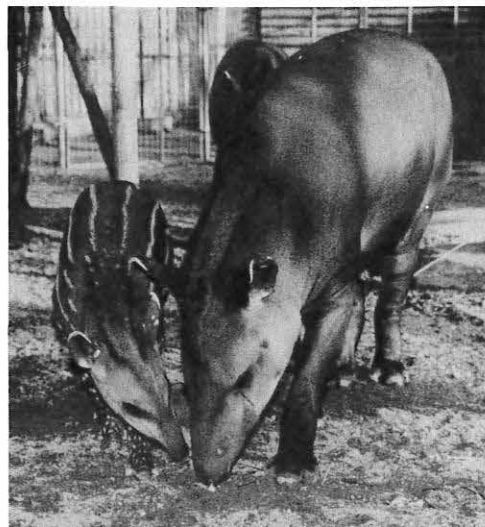
昨年6月20日に横浜市金沢動物公園よりお借りしたアメリカバクのペアに9月19日午後、赤ちゃんが誕生しました。イノシシの赤ん坊のようにシマのある可愛いこの赤ちゃんの成長記録をおとどけます。8・9ページの記事も参考にしてください。(撮影：野口 秀高)



出産直後。母親が赤ちゃんのぬれた体をていねいになめてやっています。



体の成長具合を計測しました。



お母さん、なにがあるの？



お父さんはおいしそうに草を食べるなあ。

## 11・12月の動物園日記

- 11/26. キリン、クロサイ、ヤマネコ、ビョウ各舎の暖房を開始しました。
- 11/27. タヌキ1頭とニホンキジ1羽を保護しました。アジアゴールデンキャットの内部寄生虫の駆虫を行いました。
- 11/28. 昨日保護したタヌキの左前足の骨折治療を実施しました。
- 12/1. 新しく来園したバタスザルのオスの検疫が終了したので、飼育舎でメスと見合を開始しました。近畿地区動物園獣医師研究会が開催されま

- した。
- 12/2. サル舎の古くなった止まり木を、交換しました。
- 12/3. チンパンジーのオス“リッキー”の皮ふに湿疹ができたはじめてなので、治療を開始しました。チュウゴクオオカミ(黒変種)が交尾しました。アピシニアライオンの内部寄生虫の駆虫のため、注射を行ないました。
- 12/4. 神戸市立王子動物園より動物交換で来園したカリフォルニアアシカのメス“フジコ”の検疫が終了したので、隔離所から出し、

なきごえ25(2),1989

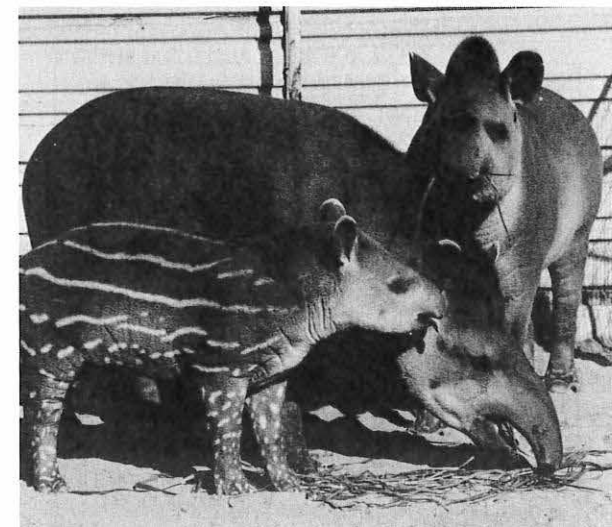


ボクがアメリカバクです。よろしく。

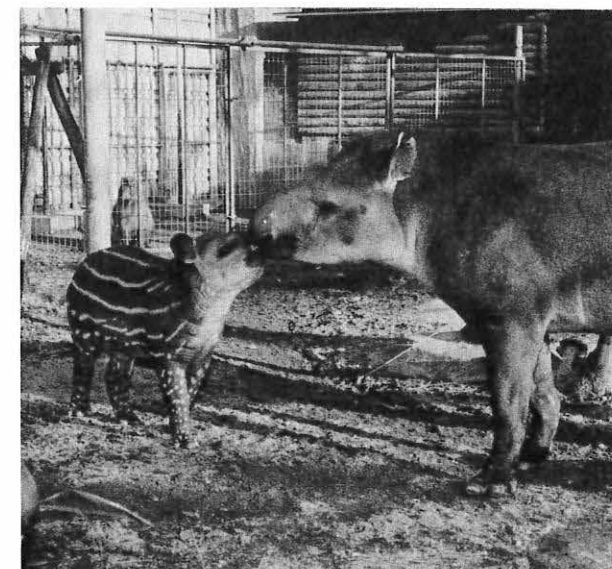


野口さんになでてもらおうと気持ちいいなあ。

- 他のアシカと同居させました。チュウゴクオオカミ(黒変種)が本日も交尾しました。
- 12/5. アオバトを1羽保護しました。
- 12/6. カンムリカイツブリを1羽保護しました。発情のためか、コンドルのメスの気性が強くなり、オスをつつきいじめるため、メスを隔離することにしました。
- 12/7. 本年生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行いました。
- 12/10. バタスザルのオスとメスとの見合を終了し、本日から同居させました。フクロギツネのメスの袋の中に、体長約20



ボクも少し食べてみようかな。



お母さん、だーい好き。

- cm程の、赤裸の子供を確認しました。
- 12/11. 第44回動物のお話とスライドの会「動物の赤ちゃん大集合」を開催しました。
- 12/12. オランウータンのメス“ウータン”が、繁殖を目的とした動物の貸借(フリーディングローン)で、名古屋市東山動植物園に送りました。
- 12/14. キーウイ“ジュン”の赤外線カメラによるビデオ録画観察を行ないました。
- 12/19. 中国・成都動物園のジャイアントパンダ飼育係、江華氏他2名が来園見学されました。キーウイの体重測定を行いました。

# キジの飼育

なきごえ25(2),1989

キジ舎の担当になって5回の繁殖シーズンを経験しました。しかし次から次へとわからない事がでてくるものです。せめて同じ失敗を繰り返さぬように今までの繁殖に関する資料を整理してみます。

## § ハイロコクジャク

現在展示しているベアーは1982年以降ずっと有精卵が確認されています。自然・人工繁殖のどちらを選んでも良好な結果が得られます。自然繁殖の場合にも他のキジ類のようにオスを別居させる必要ありません。人工育すうの際には室内から室外に出す際に温度調整に気を配ってやる程度で特に飼育方法も難しくありません。今後は、初期の卵は人工フ化を、そして次に自然ふ化をするという併用で繁殖を続けていけば良いと思います。

## § チリーシギダチョウ (シギダチョウ目)

1 昨年からの失敗から昨年はシェルター等を増やしたせいか、抱卵そしてフ化に成功しました。しかし二日齢で死んでしまい、育すうには失敗してしまいました。シギダチョウの仲間は抱卵と育雛はオスがおこなうのですが、今回は給餌行動は確認されませんでした。人工フ化の時にはミールワームを使って餌付けをしたのですが、本年度はフ化後のヒナ用の飼料を検討し、自然繁殖をぜひとも成功させたいと思います。

## § ミミキジ

1 昨年までは産卵が確認されていませんでした。そこで昨年は繁殖シーズン前に床面の山土を砂に入れ換えました。そして飼料に大豆を混ぜ、ミールワームや卵黄(ゆでたもの)を与えました。結果的に昨年は4月11日から6月12日にかけて22卵の産卵が確認されました。巣作り行動はみられたのですが抱卵する様子はみられませんでした。人工フ化は22卵中6卵は無精卵で、残り16卵中5卵がフ化し2羽が成育しました。本年度は、もう少し飼料を工夫し活力のある卵を得られるようにするとともに、フ卵器作業ももう一度考えてみる必要があると思います。

## § ベニジュケイ

昨年は4月4日から5月15日までの期間に5卵の産卵があり、うち4卵をフ卵器に入れ全てが有精卵であり2羽がフ化成育した。現在オス1羽メス2羽を展示しているが、メス2羽はまだ若い個体ですので、今後の繁殖に関する資料を正確に残すことにより年齢別の産卵数などを知ることができると思います。

## § ニジキジ

1 昨年の自然抱卵の失敗の経験から、昨年は初期の卵はフ卵器に入れ、有精卵が確認された以降の卵を自然抱卵させることにしました。4月17日から始まり、4卵目(4月24日産卵)から有精卵が確認されています。それ以降9卵が産卵されましたが全てが有精卵であり9羽のヒナが成育しました。人工フ化4羽、自然フ化5羽であり、いずれもフ化日数29~30日であった。本年度も昨年と同様な形で進めて

いきたいと思っています。

## § 人工フ化について

フ卵器内温度は37.4~37.6℃とし、湿度は一昨年の卵重の減少率の記録から考えて、70%から昨年は60~62%にしました。この結果として卵重の減少率も種類により多少の差はありますが、10%前後となりました。また無精卵と有精卵の卵重の減少率の差に関しては、1 昨年同様にg単位の測定値しか得ることができず、はっきりとした差は認められませんでした。傾向的に無精卵の方が減少率が1%程度低くなっている様です。

フ化率はマクジャク・チリーシギダチョウでは低くなりましたが、全体的には良くなりました。マクジャクの場合には死ごもりが多かったのですが、放冷時間を1時間から30分にするることによって、フ化するようになりました。ミミキジのようなフ化率が悪かった種類でも考えていかねばならないと思います。

## § 人工育すう

限られたスペースの中で複数のヒナを飼育するため雑居することになるのですが、体の大小や種類の気性を充分に考えながらグループ作りをしていかなければならないと思います。

育すう箱に1ヶ月、そして室内収容所1ヶ月、この間に徐々に外気に慣らし60日齢で室外展示という形を基本としていければいいと思います。

## § 脚の内向と指骨の湾曲の矯正

ベニジュケイ・セイランの各1羽で両脚の内向がみられました。原因として考えられることは、フ卵器の条件が適当でないか、放冷時間の不足のせいで卵の中で体が大きくなりすぎ、正常な形で脚が成長することができずに内向したということです。そのままにしておくと立ちあがることもできないため、ポリ容器を使って足型をつくり、それを両脚に固定し矯正することにしました。しっかりとテーピングすると2~3日で正常になりました。



指骨の湾曲と矯正

チャムネシヤクケイ、マクジャクとベニジュケイの各1羽それぞれとミミキジ2羽に指骨の湾曲がみられました。湾曲はその程度によって別に何ら支障のないものやひどいものでは体が大きくなるにつれ関節への負担が大きくなるのか脚の外向が目立っ

なきごえ25(2),1989

たり、歩行困難になったりするものもあります。今までは何の矯正もしていなかったのですが、昨年はその状態にあわせて、針金やアルミ板を加工して矯正をしました。結果はある程度正常になったものもあれば、効果のないものもあります。しかし生後なるべく早く矯正をしたものが治りやすいようにも思えます。今後は、まず脚の内向や指の湾曲がおきないように、繁殖シーズン前から親鳥の体調を整えて活力のある卵を産めるようにすることやフ卵器の温度・湿度・放冷時間を吟味していくとともに、もし内向や湾曲のものが出た場合には早期に矯正をしていきたいと思っています。

## § 鶏痘について

例年10月中旬ごろに鶏痘と伝染性気管支炎及びニューカッスル病の予防接種をキジ類全てに対してするのですが、昨年は少し予防接種の時期がずれていました。11月3日にニジキジのヒナ2羽の困眼裸皮に痘瘡がみられました。ニジキジのヒナ9羽を調べてみると全てが発痘していたためすぐに治療をする

とともに、他の全キジ類に対しても例年どおり予防接種をおこないました。昨年生まれのニジキジのヒナ以外に発痘しているものはありませんでした。幸い、今回の鶏痘は粘膜型ではなく体表に出たものであったため死亡には至らずに、9羽とも完治しました。しかし他の種類に比較してニジキジは感受性が高いと思われます。本年度からはもう少し早い時期での予防接種を心がけるようにしたいと思います。

## § おわりに

上記の内容は昨年のキジ舎での繁殖について書いたものですが、本誌1988年2月号8.9ページの“キジ舎の苦勞話”と合わせて読んでいただくといいかと思ひます。

いずれにしても動物の繁殖に関しては、これが正しい飼育方法だというものもなく、また例数も限られている事や繁殖は年に1回しかない事など、どうしてもはっきりとしない事が多くあるのは仕方ないと思います。しかし、その条件下で1つずつ問題を解決していくためにも、より細かく正確な観察と記録を続けていきたいと思っています。

(飼育課：早川 篤)

## 1988年度(S.63) キジ舎産卵状況一覧

種名	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計	初卵~終卵
[ブッポウソウ目]									
ワライカワセミ		3	3		3			9	1/2~1/2
[シギダチョウ目]									
チリーシギダチョウ						7	8	15	1/2~1/2
[キジ目]									
ヤブツカツクリ			1			2	1	4	1/2~1/2 確認
ハイロコクジャク	2		4	4				10	1/2~1/2
コサンケイ(♀3羽)		5	9			5		19	1/2~1/2
チャムネシヤクケイ		2	1	2	2			7	1/2~1/2
ベニジュケイ			3	2				5	1/2~1/2
ミミキジ			7	12	3			22	1/2~1/2
アカヤマドリ			6	4				10	1/2~1/2
ニジキジ			5	7				12	1/2~1/2
マクジャク(♀2羽)			3	12	4			19	1/2~1/2
ミヤマハッカ			3	4				7	1/2~1/2
セイラン		2	2	2	1			7	1/2~1/2
ニホンキジ			6	5				11	1/2~1/2
カンムリキジ			1	4				5	1/2~1/2

## 1988年度(S.63) キジ舎人工孵化状況一覧

種名	入卵数	有精卵数	孵化数
[ブッポウソウ目]			
ワライカワセミ	6	2	2
[シギダチョウ目]			
チリーシギダチョウ	15	3	2
[キジ目]			
ニジキジ	7	4	4
ミミキジ	22	16	5
アカヤマドリ	11	0	0
ベニジュケイ	4	4	3
チャムネシヤクケイ	5	2	2
セイラン	7	5	4
マクジャク	18	6	3
ハイロコクジャク	5	5	4
カンムリキジ	5	0	0
ヤブツカツクリ	3	0	0

## 1988年度(S.63) キジ舎自然孵化状況一覧

種名	抱卵数	有精卵数	孵化数
[ブッポウソウ目]			
ワライカワセミ	3	3	3
[キジ目]			
ハイロコクジャク	2	2	2
ミヤマハッカ	7	3	3
ニジキジ	5	5	5

# アメリカバクを飼って

なきごえ25(2),1989

## § はじめに

アメリカバクは昭和32年から天王寺動物園で飼育され始め、昭和45年には日本初の人工哺育にも成功しています。しかし、昭和53年に最後の1頭が死亡して以来、その興味深い姿をお見せできませんでした。

今回、横浜市金沢自然公園の御厚意により昭和63年6月ブリーディングローンによりオス・メスのペアが入園しました。このペアは昭和62年8月31日に最初の交尾が見られ、9月初めまで交尾が確認されていました。その後、交尾は見られないとの事で、妊娠は確実という事でありましたところ、昨年9月19日無事オスの仔を出産しました。



出産直後 マーガレットがぬれた体をいねいになめてやりました。

## § 両親

父親の“ボーイ”(推定8才)はカナダのバンクーバーゲームハウスより金沢自然公園に入園し、体重224kg。母親のマーガレットは昭和54年4月21日鹿児島県平川動物園で生れた個体で、体重は227kgです。この両親の間に昭和62年7月14日に1仔をもうけています。

## § 妊娠・出産

昭和62年8月31日に最初の交尾が見られ、その後9月5日にも確認されたとのことです。前回の妊娠期間が387日ということでしたので、今回の出産予定日を昭和63年9月末か10月初めに設定しました。両親はとても人に良くなっており身体をさすってやると気持ちよそうにゴロンと横になり、寝てしまいます。ですから陰部や乳房の観察にはたいへん都合

が良いのですが9月に入っても陰部や乳頭に何も変化はみられません。又、乳頭をしぼってみてもミルクは出なかったのですが、乳頭の上部が少しふくらんでいるようにみえました。9月15日にも乳頭をしぼってみたのですが、何も出てきませんでした。9月19日朝、いつもと同じようにエサもすっかり食べ、ボーイもマーガレットも何も変わった様子はありませんでしたので、いつもと同じように放飼場に展示していました。午後3時頃バクが出産していると聞いてバク舎に行くと出産は無事に終わっていました。出産時、オスのボーイと一緒にいたのですが別に何もせずお産を見守っている様な感じに見えました。子供が立つのを待って母子を寝室に収容し、当分の間父親とは別居させました。

## § 子供の成長

生まれた子はオスで、イノシシの子供のように胴体には横縞があり四趾には白い斑点があるウリ坊でした。生れて約30分位で立ち、歩き始めました。こ



オッパイを飲む赤ちゃん 体のシマ模様がよくわかります。

の日は哺乳の確認が出来ませんでしたが、夕方から夜間にかけてたびたび母親の腹部から股のあたりを探って乳を欲しがっている様子でした。翌、9月20

なきごえ25(2),1989

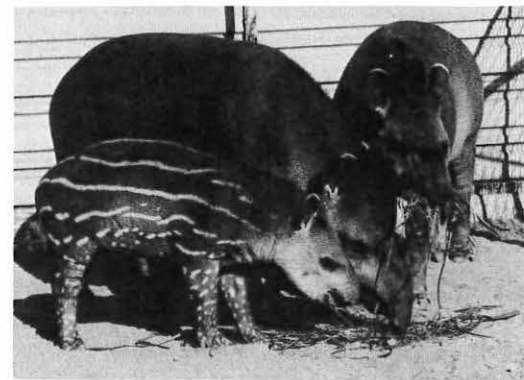
日午前10時半頃約3分間乳を飲んでいるのが確認できました。母親は横臥し片方の後脚を少し上げ子供が乳を飲みやすいような姿勢をしています。この日、母親と子供を別け、体重測定をしました。体重は8kgあり平均的な重さと思われます。

3日目、口に乾草をくわえ口をもごもご動かす、又夕方エサをやると母親の横でエサ箱の中に顔を突っ込み口を動かしていました。まだエサは食べないと思われていますが、口の廻りに餌のフスマが付いていたので、フスマを少し食べていたのではないかと思います。

6日目、母親と子供を放飼場に出し一般公開しました。最初はキョロキョロとあたりを探るような様子でしたが、すぐ母親に置いて行かれないよう後について、放飼場内を走り廻るようになりました。放飼場でも授乳をしている所が見られ、又、プールの浅い所に入り排便も自分でしました。体重も9.25kgになり出産時より1.25kgふえています。10日目より本格的に根菜類を食べるようになり順調に発育していました。

## § 父親との同居

今まで父親とは金網ごしに別居させており、たえず見える状態でしたが、父親は母親に対し落ちつき



親と一緒に青草を食べるまでになりました。

がなく柵にかけ上ったりしますので、25日目に親子3頭を同居させることにしました。父親が子供に対しどのような反応をしめすか心配したのですが母親の方に気を取られているようで、子供には割合無関心でした。終始メスの後をついて歩き、フレーメンをよくやりましたが、まだメスに完全な発情が

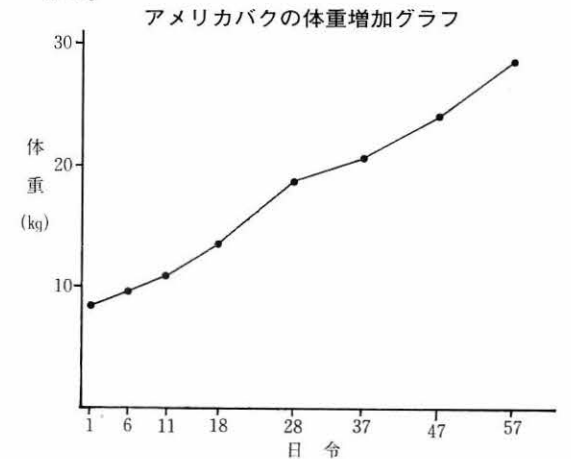
来ていないのか、メスは交尾を嫌がっているようでした。夜間は父親とは別々に寝室に収容しました。次の日の午前10時頃母親の方は乗り気ではない様子でしたが交尾をしました。その後10月19日も交尾を確認しています。一方子供は父親の所へもよく行き、父親が座っている所に行き、一緒に座ったり、寝たりしていましたが、父親の後について歩いたりもよくしていました。放飼場に青草を入れてやっても3頭いっしょに食べ、3頭はとても仲良くやっています。このころから夜間も父親とは分けず3頭をいっしょに収容しました。エサ箱は2ヶ所にしましたが、子供は母親の食べている方にも、父親が食べている方にも行ってエサを食べます。又3頭が同じエサ箱で食べている事もありました。

## § おわりに

10月19日以後交尾は確認はしていませんが、発情周期は約30日前後と思われる4~5日間続くものと思われます。子供もとても元気で成長し11月16日には体重も28kgになり身体のシマも前の方が少しくなってきました。

アメリカバクも年々その生息数が減少しています。この両親がこれから多くの子供を生んでくれるよう期待しています。

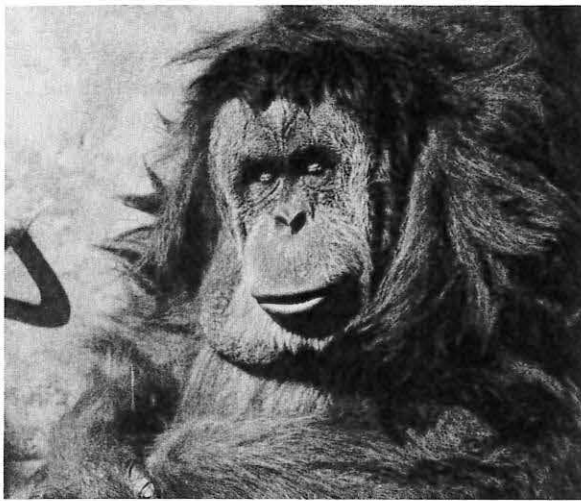
最後になりましたが、ペアのアメリカバクを心よく貸していただき、その上その飼育資料も提供して下さいました横浜市金沢自然公園に深くお礼申し上げます。



(飼育課：野口秀高)

ウータンの嫁入り

昨年12月12日、当園からオランウータンのメス1頭が、名古屋市東山動物園に嫁いでいきました。名前をウータンといますが、当園のオランウータンの中では最年長であった個体で、推定年齢が28歳。オランウータンの寿命は約50年とされていることからまだまだ子供も生める年齢です。りっぱな成獣のオスもいる当園から、別の動物園にお嫁入りしなければならなかった理由は何かといいますと、当園ではこの“ウータン”だけが、スマトラ産のオランウータンで、他3頭が全て、ボルネオ産のオランウータンであったということです。同じオランウータンなら、そんなこと関係ないじゃないかと言われる方がおありでしょうが、これは大いに関係あります。染色体も少し異なりますし、顔などの形もかなり異なっています。一度、これらの間に雑種が生まれたら最後、そのオランウータンから生まれる子供は全て雑種となり、もう純粋なボルネオ産、スマトラ産のオランウータンに戻ることは不可能になってしまうのです。150万年前、オランウータンはボルネオ、スマトラのほかジャワや中国南部・中部などアジアに広く分布していたことが知られていますが、最終的には、ボルネオ、スマトラの両島でしか、オランウータンは生きのびることができなかったのです。その100万年以上にも及ぶ長い年月が、この各島のオランウータンを進化させ、その島独特のオランウータンを形作っていったのです。これがつまり、地方別で分類される亜種が形成されたこととなります。我々は、長い自然の営みによってできあがったこの亜種を無くしてはならないのです。幸いなことに、当園ではボルネオ産のオス“ブル”と、この“ウータン”とは昔から仲が悪く、交尾までには至ったことはありませんでした。オランウータンにも人と同様、相性というものがあるらしく、きらいなものはきらいとして頑と受けつけません。動物園が希少動物の繁殖を考える場合、これは全く困ったことにな



日なたぼっこをするウータン

りますが、今回は福となったわけですから。国際保護動物で、野生ではもう1万頭程しか生き残っていないオランウータンのことです。繁殖可能なものは、できる限り、そのチャンスを与えてやらなければなりません。スマトラ産のオランウータンは現在14頭が日本で飼育されており、そのうち10頭飼育しているのが、名古屋市東山動物園で、繁殖のための動物の貸借の契約のシステム“ブリーディングローン”で借受けてもらい、繁殖計画を進めてもらうことになってきたというわけです。

別れが最もつらかったのは、申すまでもなく長年飼育を手がけてきた担当です。我々獣医は、捕獲し輸送オリに入れなければならないという役目をおおせつかり、悲しみの担当を前に、麻酔を吹矢によってかけなければならないことになりました。オランウータンは、大変かしこいので、いざ麻酔剤を注射する段になると、すぐ身がまえ、注射できないようになってしまうから困ったもの

です。そこで我々も考えました、前日に絶食させて、翌日、ミルクに鎮静剤を入れていつものように飼育担当者に飲ませてもらうのです。今回は、今までよりもずっと少量で効果のある薬を手に入れたことや、担当者が気をきかして甘いシロップをミルクに混ぜてくれたことが効を奏したのか、疑わず全量を飲みほしてくれました。その後の麻酔も、何とか順調にいき輸送オリの中に収められた“ウータン”ですが、鎮静剤と麻酔剤を使用して意識もうろうの状態が進められたことであるにもかかわらず、その翌日の名古屋出発時には早朝より昨日のことに對し大変立服の様子で、これから新生活に旅立つのだという希望めいた表情はどこからも感じとれなかった花嫁“ウータン”でした。

来年か再来年あたりには、一児の母となっている姿を、名古屋で見ることができるとも知れません。

(飼育課：森本 委利)

動物園ニュース

§ オランウータンの“ウータン” 東山動物園へ  
12月12日、オランウータンのメス“ウータン”が名古屋市東山動物園へ繁殖を目的として貸し出されました。

当園では4頭(オス2頭、メス2頭)のオランウータンを飼育していましたが、昨年の春に染色体による検査を実施したところ“ウータン”のみがスマトラ産で、他の3頭はボルネオ産であることが判明しました。オランウータンはスマトラ島とボルネオ島に分布している2亜種があります。

両者はわずかに形態が異っているだけですが、自然界ではいっしょになることはなく、動物園では10年ぐらい前から純粋な亜種の保存という東山動物園へ出園したオランウータンのメス点で問題になってきました。そこでスマトラ産の亜種を飼育している動物園で“ウータン”を飼育してもらえるように交渉をしてきました。その結果、名古屋市東山動物園で引き受けていただけることになりました。



東山動物園では、現在10頭のスマトラ産のオランウータンを飼育しており、当園の“ウータン”を加えて11頭になります。東山動物園では繁殖も順調ですので、“ウータン”は推定28才の高齢ですが、2世の誕生も期待できそうです。

§ キムネオナガテリムクの来園

12月20日にキムネオナガテリムクのオスの寄付がありました。この鳥はアフリカのエチオピア、ソマリア、ケニアなどに分布しているムクドリの間で、黄色の胸と長い尾が特徴的な美しい鳥です。

当園では昭和60年に入園したメスを1羽飼育していただけですので、待望のオスが来園しました。かごごしの見合いの後、12月19日に同居させましたが、闘争もなく折合いはよいようです。今後の繁殖を期待したいものです。

§ カムリカイツブリの保護

12月6日、カムリカイツブリが1羽保護されました。住之江区の南港野鳥園の入口の前に箱に入れて置かれていたもので、野鳥園より当園に届けられました。

カムリカイツブリは大型のカイツブリで、夏羽の冠毛とえり巻の赤い飾羽が特徴的な鳥です。大阪では冬に淀川の中津付近などで見られます。

左翼と下嘴を負傷しており、現在動物病院に入院中ですが、毎日ドジョウをよく食べていますので近いうちに自然復帰できるでしょう。

§ ゾウにサトウキビのプレゼント

昨年12月1日の大阪・奄美間のジェット旅客機

現在の飼育動物数

(昭和63年12月31日現在)

哺乳類	13目	105種	457点
鳥類	20目	197種	669点
爬虫類	3目	35種	88点
合計	36目	337種	1,214点

就航を記念して、12月8日に鹿児島県大島支庁・奄美群島観光連盟から当園のゾウにサトウキビがプレゼントされました。



当日は橋本幸雄大島支庁長を団長とする16名の方々が来園され、南園ゾウ舎前で2人のミス奄美からゾウの飼育担当者にサトウキビが渡されました。さっそくサトウキビをもらった3頭のゾウたちは大喜びでおいしそうに食べていました。続いてゾウ舎前でミス奄美らがサンゴや星の砂、黒砂糖などの奄美の特産品と観光パンフレットを入園者に配布しキャンペーンをくりひろげました。

§ 動物園のお正月

毎年、エトにちなむ動物舎にメ縄飾りをしますが、今年へび年ですので12月27日には虫類舎のアミメニシキヘビとインドニシキヘビを収容している部屋の前にメ縄を飾りました。

また、北園展示館では恒例のエトにちなむ郷土玩具展を1月2日から31日まで開催しました。京都市在住平田嘉一氏提供で今年の年賀切手にも採用された栃木県の下野土鈴をはじめとするへびに関するもの約400点の郷土玩具を展示しました。



エトにちなむ郷土玩具展

レクチャールームでは2日、3日の両日動物映画会を開催し、2日には園長が年頭あいさつを行いました。また、両日共先着200名の入園者に動物園のコアラ写真カレンダーを配布しました。

●お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
- 2月19日(日) バードウォッチング
- 3月19日(日) コアラがやってくる
- 4月16日(日) 動物園の一日
- 時間：午後1時～2時
- 場所：北園レクチャールーム

●テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っていますのでご利用ください。  
電話番号 771-9999

\* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3月曜日(休日の場合は翌日)です。4月までの休園日は下記のとおりです。  
2月20日(月)、3月20日(月)、4月17日(日)  
開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

キップスは便利をかたちにしたカード。

近鉄グループカード  
〈キップス〉

会員募集中

**KIPPS** VISA JCB

◎近鉄百貨店でのお買物が5%割引など、近鉄グループの特典いろいろ。

お問合せとお申込みは各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階 ●上本町店11階 ●東大阪店本館 ●橿原店6階 ●奈良店4階 ●西京都店1階 ●東京店7階

**近鉄百貨店**

DEAR LIFE BOOKS



**生態・飼育・図鑑** が一つの本の  
中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

**むしくらしと  
いかた**

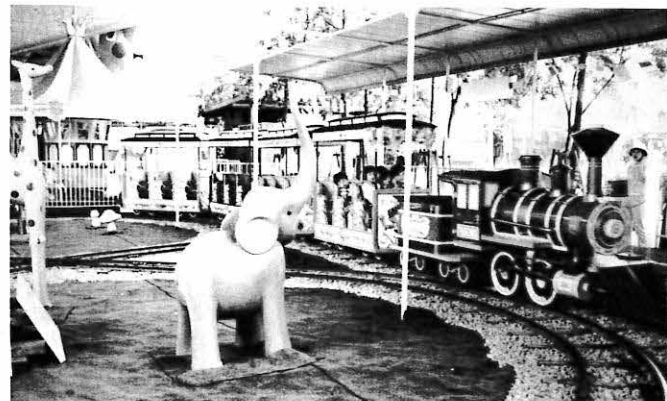
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

**ちいさないきもの  
くらしと  
いかた**

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

**久竹娛樂株式会社**  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは  
頭脳をもった。



高画質時代をリードする  
はるかに美しく

**フジカラー SUPER HR**

**カラの大林**  
桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉 著 日本狼の正史ついに完成

改訂六版 **狼—その生態と歴史—**

定価 2,800円  
A5判・本文320頁  
口絵・挿画等140図

☆犬科動物の研究者として知られる著者が数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の眼をもって描いた空前の書。日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 序章 狼への幻想と現実                | 第一章 犬科の分類と解説           |
| 第二章 犬と狼の関係 家犬の成立 犬と狼の相違点   | 第三章 日本狼の歴史 古代の狼害と狼の神格化 |
| 第四章 狼狩の記録 江戸時代の狼狩り         | 第五章 狼の伝説 間違いだらけの狼の姿態   |
| 第六章 日本狼の形態 日本における狼の研究      | 第七章 日本狼の絶滅 最後の日本狼      |
| 終章 狼を飼った人々 秩父宮殿下の狼。著者の飼った狼 |                        |

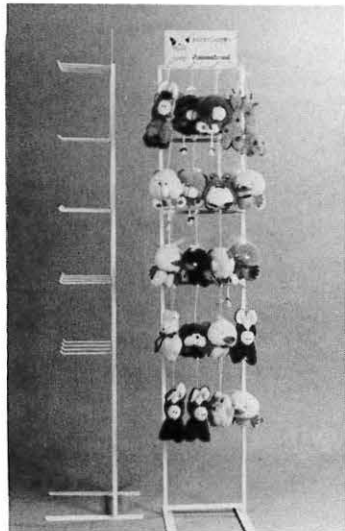
発行 動物文学会 〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659 振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 〒162 東京都新宿区弁天町43番地 電話(03)267-6821 振替東京2-60072

- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」  
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。



**大阪市天王寺動物園協会**

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

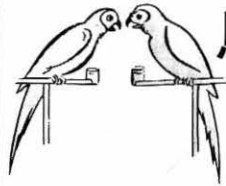


## 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

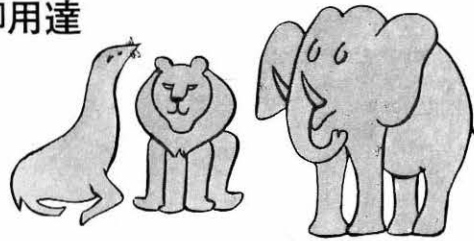
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06) 704-8580  
FAX: (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

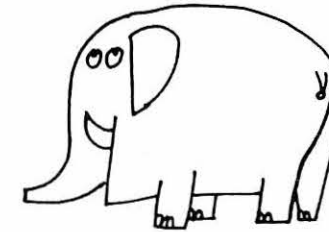
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内



## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内での写真は…

### 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますので説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444



もっとおいしく もっと元気に!... 雪印



# 雪印 ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

## WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア 商事部  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?  
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1989年2月10日発行(毎月10日発行) 第25巻 第2号 (通巻282号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823

編集委員

(土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/齊田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)  
森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/中垣圭史/大川光雄/山下賢二/土谷正道)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823